※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１８

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　新地理総合（帝国書院）						
副教材等	標準高等地図（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現在の諸課題の背景にある地理的な知識を身につけ、様々な資料を読み解いて考察する力を養い、これからの未来をより良くするための足掛かりにしてほしい。

世界中の人々の生活や暮らしを見ていくことによって、人々の考え方、文化の違いについて理解を深め、グローバル社会を生きるための土台を築き、国際社会のなかで物事を相対的に見つめることができるような広い視野を培ってもらいたい。

2　学習の到達目標

・基本的な地形・気候などの地理的観点から世界の各地域の国々の様々な社会・文化に触れ、グローバル社会に生きる現代人としての素養を身につける。（知識及び技能）
・諸資料に基づき地理的条件や環境要因が自分たちの生活と密接に結びついていることを理解できるようにする。（思考力・判断力・表現力）
・地理に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国家・社会を形成する日本国民としての自覚を持てるようにする。（学びに向かう力、人間性）

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な事柄を地理的条件や環境要因等と包括的に関連付けながら理解し，その知識を身につけている。地理に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。各地域の人々の暮らしや文化について地理的な観点から判断している。	過去から現代までに継続的に培われてきた文化の多様性･複合性やグローバル世界の特質をその環境要因や地理的条件から多面的・多角的に考察し、その中で世界の歴史や日本の歴史にどのような影響を与えたのかを身に付けている。	地理に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国家・社会を形成する日本国民として､またグローバル化する世界のなかで国際人として主体的に生きる責務を果たそうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1部　地図や地理情報システムでとらえる現代世界	1章　地図や地理情報システムと現代世界 2章　結びつきを深める現代世界	a:地球儀や様々な図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身につけている。 また、日本の位置と領域，排他的経済水域の特徴，日本の領土をめぐる問題について理解している。 b:上記のことについて地図を通して、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見出している。 また、日本の位置と領域，排他的経済水域の特徴，日本の領土をめぐる問題について，よりよい社会の 実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。	定期考査	定期考査	振り返りシート ノート提出

※令和４年度以降入学生用

	2部 国際理解と国際協力	1章 生活文化の多様性と国際理解 －1節 世界の地形と人々の生活 －2節 世界の気候と人々の生活 －3節 世界の産業と人々の生活 －4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	a:世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 b:地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見出している。	確認テスト	レポート	発表 ノート提出
2学期	2部 国際理解と国際協力	1章 生活文化の多様性と国際理解 －5節 多様な生活文化と地理的環境 (事例1)東アジア (事例2)東南アジア (事例3)インド (事例4)中央アジア・西アジア・北アフリカ (事例 5)サハラ以南アフリカ	a:世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを、具体的な事例を検討した上で理解している。 b:地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、具体的な事例を検討した上で多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見出している。	確認テスト	レポート	発表 振り返りシート ノート提出

※令和４年度以降入学生用

	２部　国際理解と国際協力	1章　生活文化の多様性と国際理解 －5節　多様な生活文化と地理的環境 (事例6)ヨーロッパ (事例7)ロシア (事例8)アメリカ合衆国 (事例9)ラテンアメリカ (事例10)オセアニア	a:世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを、具体的な事例を検討した上で理解している。 b:地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、具体的な事例を検討した上で多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見出している。	定期考査	定期考査 レポート	発表 振り返りシート ノート提出

※令和４年度以降入学生用

3学期	2部　国際理解と国際協力 3部　持続可能な地域づくりと私たち	2部－ 2章　地球的課題と国際協力 3部－ 1章　自然環境と防災 2章　生活圏の調査と地域の展望	a:地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを理解している。自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証方法、発表の仕方についての技能を身につけている。 b:上記のことについて多面的・多角的に考察している。また、身近な地域を調査し、その事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのか、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、ほかの事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。また、生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し､課題を見いだしている。	確認テスト	レポート	振り返りシート ノート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度